

暴風等に関する営農技術対策

平成22年4月13日
北海道農政部

日本海中部の低気圧が急速に発達しながら北東進し、日本海側北部と太平洋側西部では、13日夜遅くから14日にかけて、南東のち南西の風が非常に強く、大荒れの天気となる見込みです。

今後の地元气象台・測候所の気象情報等に十分注意し、以下の技術対策を参考に適切な対応に努めてください。

第1 ハウス施設（各作物育苗、栽培ハウス）について

- 1 今後の天候に留意し、鉄骨金具類、ハウスバンド、アンカーの締め付け具合を確認し、ビニールの破れがある場合は補修をしておく。また飛来物による破損を防止するため、ハウス周辺の片付けを行う。
- 2 降雨、降雪も多くなることが予想されているので、ハウス周辺の明きょ整備、溝切り、ハウスすそをきちんと締め直しておく。また、強風時の作業は危険なので行わない。
- 3 天候回復後は再度ハウスバンド、アンカーを締め直し、破損したビニールや折損したパイプは速やかに取り替え、ハウス内の土壌乾燥と保温に努める。また、電気系統や機器に故障がないか確認する。

第2 育苗対策

- 1 育苗中の水稻、てんさい、野菜、花き等の苗が強風被害を受けた場合は、速やかに保温と必要に応じてかん水を行い生育の回復を図る。
- 2 野菜苗（一般に果菜類）の育苗期間は花芽の形成時期となるので、低温に遭遇した時間にもよるが障害の恐れがある場合は地域や生産組合で健全な苗の手配を行うことが望ましい。
- 3 障害の程度が大きいと判断される場合は、作型の変更や、新たに育苗を行うことを検討する。
- 4 雨水が侵入した場合は、溝を切り排水を促す。

お問い合わせ先：食の安全推進局技術普及課（電話011-231-4111 内線27-816）